

第4回白石町総合計画審議会 会議録（要旨）

■日 時 令和7年11月11日（火） 午後7時00分～午後8時37分

■場 所 楽習館

■出席者 委員：16人出席

町：副町長、企画財政課職員5人

担当課長：総務課長、総合戦略課長、農業振興課長、商工観光課長、農村整備課長

○開会

【進行：企画財政課長補佐】

○会長挨拶

会長から挨拶

～資料の確認～

○審議事項

進 行：ここからは堤会長に会議の議長をお願いする。

会 長：（1）基本計画素案について【資料1.2.3】について

事務局：～資料をもとに説明～

会 長：事務局から説明があったが、説明のあった施策順に質問を取っていきたい。まず施策17について委員から質問・意見はありませんか。

委員A：成果指標の【新規農業従事者数】が80人となっていますが、園芸（野菜類）や耕種農家（米、麦、大豆等）など内訳はどのようになっていますか。

おそらく、施設園芸が増えていると思いますが、もちろんすべての農地をハウスなどにするわけにはいけないので、農地の問題は耕種農家の後継者不足が関係してくると思います。そのため積極的な動きがあればいいなと思います。

農業振興課：手元に資料がないため内訳は持ち合わせてはいませんが、イチゴトレーニングファーム、農業塾につきましては今年で7期生となり、毎年3人程度で総計23人が町内に移住されています。

施設園芸だけでは限界があるというのは町のほうでも承知しておりますので、土地利用型のトレーニングファームも作れないか検討しています。

委員B：同じような意見を私の地元でも聞いています。この80人の中に数aの方、数ha作付されている方いらっしゃると思いますが、指標化はできませんか。

農業振興課：いろんな農業経営スタイルがありますので分けも必要になります。検討させていただきます。

委員B：目指すべき方向性の中に集約化を進めますとありますが、成果指標の中に集約に関する指数を入れたりできますか。

農業振興課：現在、集約化を指標や統計として出すような仕組みにはなっていないので難しいです。

会 長：次に施策18について質問はありませんか。

委員C：主産業のノリ養殖について、組合員もノリ業者も減ってきているが、グラフなど推移がわかれば教えてください。また、なかなか言いにくいとは思いますが、町としての方向性を教えていただきたい。

農村整備課：養殖者数の推移について説明いたします。平成27年は100名、令和6年は65名ということで、10年で35名の減少がっております。減少の要因としては、有明海の海況変化に伴い、ノリの生産量が落ち込んでいること。また、その背景で高額機械等の更新が難しい状況もあり、更新のタイミングで廃業される方が多く見られます。

この減少に歯止めをかける的確な対策は見られませんが、国・県でも有明海の再生に向けて、海底耕耘^{こううん}や二枚貝の養殖など行われています。

委員B：新規事業のカキ養殖は、今現在誰もされていないのですか？

農村整備課：はい。昨年から県の事業を活用して、ノリ養殖と併せてカキ養殖を行う複合経営に対して助成がっております。

委員B：新規事業ということで成果指標に入れてもいいのかなと感じました。

委員C：温暖化等の気象変動により農作物も漁業も不作になったりしていると思う。大局的に見てどのような推進をされるのか教えてください。

農村整備課：気象変動により、今年のノリの種付けは過去最も遅くなっています。この時点で収穫量が減少することが分かっています。

それを踏まえ、県水産試験場も病気や高温に強い品種改良であったり、海況の改

善の研究をされています。

また、ノリの色落ち問題も併せて研究を進められているようです。

会 長：次に施策 19 について質問はありませんか。

委員 D：先月 26 日に商工会 20 周年を迎え、商人（あきんど）フェスを開催しました。商工会青年部員についてですが、十数年前は 60 人いたが、現在 30 人と半数になっています。また、コロナの影響もあり以前の状態に戻っているかというところではなく、廃業されているところあります。

その中で、白石町も毎月イベントを行い、賑わいを見せ、人に戻ってきてほしいとか、新たに來てほしい思いもあり開催させていただいたところです。

商店街のテナント、お店については、店舗と住宅が一緒になっており貸せないため、新たに町内で出店したい方が入れない等、声をきいています。商業されている方々が増えないという現状となっています。

成果指標の中に【起業・創業者数】がありますが、内訳についてと若い方がいればぜひ青年部に入っていただきたいなと思います。

商工観光課：今、内訳のわかる資料を持ち合わせていないため、後でお伝えいたします。また、この数値に関しては、主に創業者支援事業や創業塾を活用されて起業されている方となっています。その方々は、基本的に商工会へ入会していただくので、もちろんおすすめさせていただいております。

町内の商店起業される方を増やすという、大きく捉えた形で進めていきたいと思っています。

委員 B：【起業・創業者数】の算出方法を教えてください。

商工観光課：創業塾や創業支援事業を活用いただいた方の数値を上げさせていただいております。そのため、事業を活用せずに活用されている方も中にはいらっしゃる可能性はあると思います。

委員 B：同じく成果指標に【商工業者の減少数】がありますがこれは減少数を減らしたいという指標でしょうか。

商工観光課：目標値の今後の考えとしては、例として【起業・創業者数】が現状値 26 で、【商工業者の減少数】31 となっており、差し引きの -5 が 4 年間で減少している数とみることができます。それを踏まえたうえで起業数と減少数の差が 0 に近づくような数値を掲げていきたいと思っています。

委員 E：質問が 2 点あります。主な取組の 3 についてインバウンド対策とありますが、具体的な内容としてはインバウンドを呼び込むことでよいのか。現状インバウンド

需要を見かけたことがないので。

また、空き店舗については住居と一体型となっているところへどのような施策を行っていくかの2点をお伺いしたいです。

商工観光課：インバウンド対策は、呼び込むというより今後インバウンドが増えた場合の対策といったニュアンスになります。そのため現在行っている事業等はございません。

住宅兼店舗については、県の事業を活用して創業者支援事業に取り組んでおりますがここ数年の実績はありません。また、住宅のため貸してもらえない実情などもありますので、いろんな情報を把握しながら、提供も行いたいと思います。

会 長：次に施策20について質問はありませんか。

委員B：成果指標の現状値2は具体的に何ですか。

総合戦略課：1件目がふるさと納税関連の情報系企業である【株式会社スチームシップ】、2件目は菌体リン酸肥料の製造工場ということで【株式会社クリーン発酵九州】となります。

会 長：次に施策21について質問はありませんか。

委員F：成果指標の【町内周遊率】が117.7%となっていますが、この現状値に納得できているのか。これをもっと高めるといことなのか。また、数値的には町内を回っていると捉えてよいものか教えてください。

商工観光課：今回の成果指標については、新たに3つ【白石町内来訪者数】【道の駅来訪者数】【町内周遊率】を追加しております。【白石町内来訪者数】は九州経済調査協会の“お出かけウォッチャー”のデータから算出しています。これは、町内外の人全員が白石町のスポットへ来訪した人数となっています。例えば町内のスポットに複数行かれた場合も1カウントのみとなります。

そして【町内周遊率】は【白石町内来訪者数】を分母とし、各スポットへの来訪者数を分子に置いた数値となります。（3か所行かれると各スポットに1カウントずつ行う。この人の周遊率は3/1で300%となる）

この全体の数字を150%くらいまで増やしていくために今後取り組んでいきたいと思います。

委員B：ポイントセッティングされている箇所はいくつくらいありますか。また、スポットの表示ができないか。

商工観光課：はっきりと覚えてはおりませんが十数か所だったと思います。スポットの場所については、公開できない情報となっておりますのでよろしくお願いします。

委員G：春先に、大阪の中学生が修学旅行にきて、各家庭に民泊として宿泊し、農作業や干拓や堤防を見に行ったり、様々な活動をして帰っていただいたようでした。

お別れ式では、ある男子生徒が「絶対人生の中でもう一回この家町にくるんだ」ということを宣言して帰ってくれた、素晴らしい出来事もありました。一つの成功モデルになるかなと思ったところですが、今後の体験で観光をどのようなイメージでどのような事業があるかご紹介をお願いします。

商工観光課：今回の体験型観光につきましては、官公庁の補助事業を活用しまして、観光協会のほうで、観光コンテンツの商品として開発を行っていただいております。

今後、観光コンテンツの開発事業者がそのまま事業を継続していけるような開発と行っております。

例えば、イチゴ農園などの体験型農業であったり、料理作りの体験型観光などを開発して、滞在時間を長くし白石町を知っていただく、よければファンになっていただく、関係を持っていただくということで進めています。

委員H：成果指標の【観光入込客数】はどのような内訳、計算方法なのか教えてください。

商工観光課：こちらもお出かけウォッチャーから算出しており、町外からの白石町のスポットへ来訪した人数となっています。この数字も複数スポット行っても1カウント扱いとなります。

また、前回の総合計画にも成果指標として記載がありましたので推移の把握ができるように今回も残しております。

委員E：そしたら、【観光入込客数】と【白石町内来訪者数】に差が出るのは何が原因ですか。

商工観光課：どちらも町内のスポットを訪れた数（複数でも1カウント）になるが、【観光入込客数】は“町外のみ”、【白石町内来訪者数】は“町内外”となります。差は町内の方の数ということです。

委員E：ということは、【町内周遊率】の分子にあたる数値には町内者も含むということですね。

商工観光課：はい

委員E：滞在時間を長くするとありますが、白石町内に宿泊施設はありますか。民泊に頼るしかないのでしょうか。

商工観光課：2カ所（秀津宿と東郷に一軒）あります。

委員B：それぞれベット数はどのくらいあるのか。

商工観光課：1部屋で4人くらいだったかなと。

会 長：次に施策22について質問はありませんか。

委員B：町民が他市町へのふるさと納税をどのくらいの人が行っているか、また額は把握していますか。

企画財政課：町内の方が他市町へふるさと納税をされて税額控除を受けていることは、税務課で確認できます。また、町外からのふるさと納税額については商工観光課で把握されています。

直近の、ふるさと納税額は令和6年で11億くらいですが、町民が外へふるさと納税している額と町外から白石町へふるさと納税された額を差し引きすると、白石町はプラスになります。

委員F：白石町職員の方で町外に住まれている方がいらっしゃいます。その方々は白石町へふるさと納税されていると伺っております。

委員I：ブランドメッセージの「しろめし町しろいし町」について、大変良いなと感じていますが、私の周りではしろいしみのりちゃんがまだ人気があります。
今回何もないのは何か理由があれば教えていただければ。

商工観光課：みのりちゃんは特産物PRキャラクターとして活動を今後行う予定であります。その中で、今回のブランドメッセージには積極的に入れてはおりませんが検討させていただきます。

総務課：「しろめし町しろいし町」というこのブランドメッセージには、白石町には豊かな土壌・お米があり、お米は仕事や遊び（生活）の原動力となり家族団らんや、仲間との絆を通して、豊かな暮らしができますよ。といった意味を込めております。

そして、もう一つが“しろいし”と呼び間違えられる苦い思い出もあるため、“しろいし”を売っていきたいという狙いもあります。

また、みのりちゃんについても、白石町のPRをしていくためのマスコットキャラクターということでコラボしながら、白石町を売り出していきたいと思っております。

委員E：ブランディングやシビックプライドなどわかりにくい標記がある。他の箇所ではブランド価値の向上や町民の誇りを醸成すると記載があるので、その表記でいいのではと思います。

二つ目に、発信について若い人達は本当に興味のあることしか調べていかないと思います。しかし、流れてきた情報やずっと流れていると見るので、例えば若い人が集まる駅などに、PR 動画を流し続けたりポスターを掲示することで印象に残りやすいのかなと思います。魅力の発信として目で入ってくる情報が多いのかなと思います。

総務課：実は今年度から PR 動画の作成を行う予定としております。また、委員からおっしゃられた若者層や、年代別に興味をいただけるように WEB 広告での配信など、今後展開してまいります。

また、「しろめし町しろいし町」がどこにでも目に付くように道の駅や駅でのぼり旗やポスターの掲示を行い、まずは町民の皆さんにみのりちゃん以上に覚えていただけるようにしていきたいと思います。

そして、白石町に対する誇りを醸成し、町民からも発信をしていただきたい。

委員 B：私事ですが、白石博多駅間を通っていますが、新幹線の開通に伴い肥前山口が江北駅に、特急かささが鹿島止まりになって、博多駅では毎日掲示板や電車内で駅名をコールされています。なので知名度は高いわけではないが、刷り込みによる効果があるのではないかと思います。

委員 C：白石町として企業誘致をどう考えていますか。また、山林への活用などはどうされますか。

総合戦略課：工業団地についてですが、県内でもかなり余っている状態です。用水やインフラ整備がされている場所は若干売れている状況です。また、当然工業団地を整備するとなると経費と、町としてもリスクを伴うわけでございます。

現状、農振除外が可能であったり、インター付近や、立地に恵まれているところを選択し、学校再編後の跡地などもしっかり生かした商業施設や、企業の誘致活動を行って参ります。

会 長：最後に全体通して質問はありませんか。

会 長：その他について説明をお願いします。

～事務局より次回開催日の案内を行う～

委員 C：時間を早めることはできないか。

事務局：お仕事をされている方がほとんどなので、今後も 19 時からで案内します。

○閉会